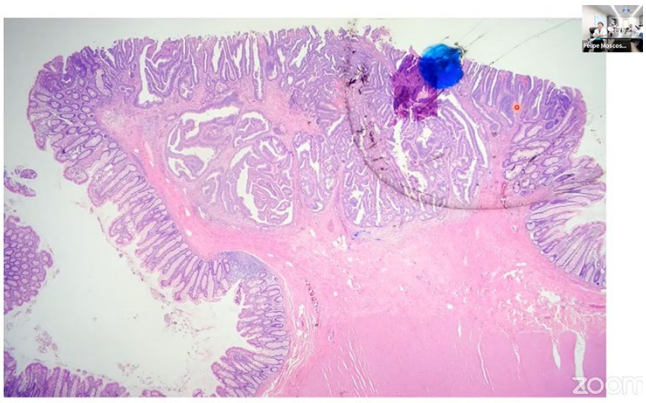
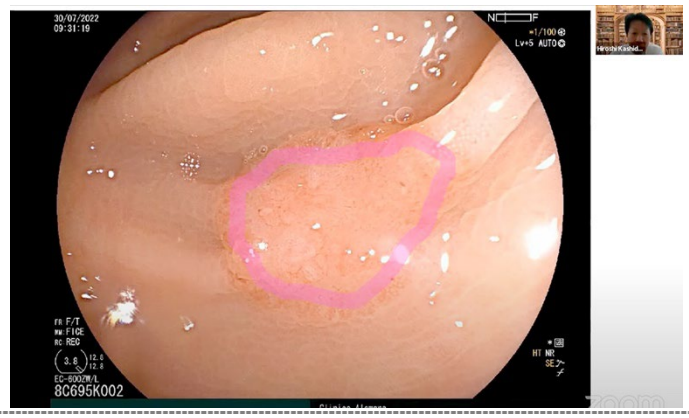
#1708

2023.03.16

第29回 ラテンアメリカテレカンファレンス

【参　加　施　設】	【概　要】
マ九州大学病院（日本），アレマナ病院（チリ），チリ国立がんセンター（チリ），サン・ファン ディオス病院（チリ），メキシコ国立医学・栄養センター（メキシコ），メキシコ国立自治大学（メキシコ），メキシコ消化器病センター ガルシア・ヒネレスオフィス（メキシコ），ヴィタ バーテル病院（ブラジル），ノッサ・セニョーラ・ダス・グラッサス病院（ブラジル），バレトスアモール病院（ブラジル），マッケンジー福音大学病院（ブラジル），サンタクルス日本病院（ブラジル）他 12 施設	今回の会議では、2 件の興味深い症例が提示された。1例目は進行がんのような内視鏡所見がある小さな大腸病変で、最終的に手術により治療したが病理像が興味深かった。2例目は濃厚ながんの家族歴を有したCDH1遺伝子変異のある症例が示され、手術または内視鏡検査によるフォローアップ、いずれを勧めるかについて非常に有意義な議論が行われた。
モニタに表示される接続施設	発表するDr. 樫田
撮影場所：九州大学病院	撮影場所：九州大学病院
	
提示されたスライド	提示されたスライド
撮影場所：九州大学病院	撮影場所：九州大学病院
アレマナ病院の様子	コメントするDr. 上堂
撮影場所：九州大学病院	撮影場所：九州大学病院